

令和6年度 鳳凰高等学校自己評価表

学校経営方針	教育基本法及び学校教育法を礎に、本学園の建学の精神である「 誠実にして社会に役立つ情操豊かな人間教育 」の実現のために学園の総力を集結し、その教育成果をもって地域社会の信頼に応え、開かれた学園として社会に貢献する。
教育目標	誠実 (1) 思いやりを持ち、他者への感謝の気持ちを忘れない生徒の育成 (2) 確たる自分を持ちながら、他を認める精神を併せ持つ生徒の育成 (3) 挨拶を軸とした礼儀作法の涵養による健全な心身の育成 社会 (1) あらゆる変化にも柔軟に対応できる人材の育成 (2) 価値観を認め合い、他者と協力しながら問題を解決できる生徒の育成 (3) 主体性を持ち、地域社会に貢献できる人材の育成 人間力 (1) 最善を追い求める姿勢の育成 (2) 物事の本質をとらえ、論理的に考える力の育成 (3) 困難を乗り越えるため創意工夫する力の育成

*100点満点

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価	前年度	成果と課題	
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価							
(1)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し教育実践に努める。	86	85	学校経営方針を教職員が理解・共有した上で教育を実践している。その取組と成果の生徒・保護者等への発信は学年・学科などから今後も継続していく。
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	74	78	
(2)	学校教育	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	84	83	建学の精神に基づく教育の3本柱を教職員が理解・共有し、目標に沿った指導を展開している。生徒・社会の実態を踏まえた適切な目標設定をした上で今後も教育活動を展開していく。
				教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	84	80	
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	78	80	学年部会は定期的に開催され情報共有・共通理解が図られた。あわせて5学年の主任間の共通理解にも取り組んだ。
				学年部会を月1回以上開き、目標達成状況、指導上の課題や学年行事等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	87	88	
(4)	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った活気あふれる学級づくりを行う。	学校・学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、意欲的な学級経営を行う。	79	83	生徒の実態に応じたよりよい学級運営のあり方を常に模索しながら日々取り組んだ。生徒の多様化や業務の変化に対応する難しさに直面する中、令和6年度は様々な角度からの研修の場を設定し研鑽に努めた。それをどのように活かしていくかの課題は残るが、生徒が更に主体的に学校生活を送れるように努めた。
				個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	81	80	
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	81	83	
				学級通信を定期的に発行し、担任の熱意にあふれた情報発信を行う。	76	75	

(5)	学科 経営	学科目標 の具現化	学校目標及び学科目 標に沿った学科づくり を行う。	学科目標の教員・生徒への浸 透を図り、その目標達成のた めの教育活動を展開する。	82	80	学科目標の実現に向け、教 員間で共通理解をし、その達 成に向け教育活動を展開して いる。進学試験・就職試験・国 家試験・各種検定への合格に 向け各学科で創意工夫を凝 らし取り組んだ。
				学科会議を月1回以上開き、 目標の達成状況、指導上の課 題や学科行事等について職 員間の共通理解を図り、統一 的な指導を行う。	89	85	
2 教育活動 教育活動全般における教育的成果の評価							
(1)	教育 課程 の編 成	創意工夫 された適 切な教育 課程の実 施	学習指導要領の趣旨 が生かされた特色ある 教育課程を編成する。	各学科・コースの特性や個々 の生徒の進路に適した教育課 程を編成する。	89	88	各学科・コースの特性にあわ せた特色ある教育課程が編 成されている。学習評価規定 に基づき、適切な対応ができ た。反省点は次年度に活かし ていく。
				教育課程の実効性や、教育目 標の達成状況を定期的に検 証する。	88	83	
(2)	教科 指導	わかる授 業の展開 と工夫・改 善	創意・工夫がなされた 学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画 (シラバス)を作成し、学習目的 や学習方法を事前に生徒に 説明する。	81	80	学習評価規定に基づき、観点 別評価について適切な対応 ができた。各教科担当者は 日々工夫を凝らした授業を展 開しているが、授業アンケート の実施だけにとどまらず、更 なる授業力向上に向けた取 組に期待したい。今後は研究 授業の積極的な取組が必要 である。
				教材研究や指導力の向上に 努め、効果的な授業を行うた めに研究授業に積極的に参 観したり、自らも研究授業を実 施する。	79	78	
				わかりやすい授業を推進するた めに、生徒による授業評価を 定期的実施する。	81	78	
(3)	特別 活動	ホーム ルーム	学校・学年の教育目標 に沿った年間計画によ り、活発な活動を行う。	年間計画に基づいて、事前準 備をよく行い、活発なホーム ルーム活動を実践する。	69	68	年間行事予定に基づき、6年 度は生徒会が中心となり、生 徒全体が積極的に参加できる ような工夫を凝らしたことは 大いに評価できる。また、 諸式典においても従来の形 式で盛大に行うことが出来 た。
		生徒会活 動の充実	生徒の自主的・自発的 な活動を推進する。	生徒の自主性を尊重し、積極 的・意欲的に活動に参加させ る。	74	75	
		学校行事 の充実	生徒の実態に即した効 果的な行事を企画運営 する。	効果的な学校行事となるよう 生徒・保護者の意見も参考に しながら常に工夫・改善を行 う。	78	80	
(4)	生徒 指導	基本的生 活習慣の 「見届ける 指導」	中途退学を未然に防ぐ ための生徒理解に務 め、基本的生活習慣の 定着や交通マナーを遵 守させる、きめ細やか な指導を行う。	欠席のない、はじめあるクラス づくりの実践。	77	78	生徒指導において、挨拶・清 掃・服装容疑において、共通 認識のもと指導しているが、ま だ十分とは言えない現状であ る。7年度よりチーム担任体制 になることで、全体の力を結 集し徹底した指導を期待した い。挨拶においては、10箇条 の復唱を復活させるべくその 取組への具体的な準備に取り 掛かっていく。
				服装・容儀の徹底指導。 (特に頭髪・スカート丈)	80	80	
				挨拶の励行・時間厳守の浸 透。 (始業時間に授業がスタート)	83	83	
				交通安全指導の徹底 (違反者・事故者ゼロを目標)	81	78	
				教育相談・健康相談・悩みの 相談など多角的な生徒理解の 推進	87	90	

(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う	進路実現に向け、模擬試験や検定試験などを計画的に行う。	79	83	模試や検定など、各学科の特色にあわせた計画的な取組ができた。三者面談においては、時間的制約を受けることは多いが、各学科クラスで工夫して取り組んだ。
				進路実現に向け、講演会や三者面談・卒業生との交流会などを行う。	78	78	
				職業観・職業意識を醸成するための効果的な現場実習を体験させる。	71	73	
(6)	人権教育	人権尊重に対する普遍的価値観の育成	人権尊重に関する様々な課題を認識させ解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	85	85	大抵の生徒は他者への思いやりや協力の姿勢を理解した上でより人間関係を築いている。一方では、自身の言動が与える影響を考えるに至らない生徒もいるので、教諭論指導が必要となっている。
(7)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動への積極的な参加を奨励し、学校生活の満足度を高めるとともに、学習との両立ができるよう支援する。	81	75	部活動への参加の推奨はしているが、入部率としては決して高いとは言えない現状である。部活動生は、人間形成、技術力向上等に向け一生懸命に取り組んだ。
				部活動を通して、達成感や挫折感等を共有する過程で、忍耐力及び協調の精神、コミュニケーション能力などのたくましい人間力を育む。	80	78	
(8)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア精神の高揚を図る。	ボランティア情報を提供し、積極的・主体的な参加を奨励する。	71	75	ボランティア担当者からの情報提供が増えてきた。今後は参加を促す指導力が求められる。参加者数の検証までは至っていないが、昨年度よりは増えたと言える。
				施設訪問や環境美化など、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	80	80	
(9)	資格取得	各種資格取得奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定、漢字検定、ワープロ検定等に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	75	73	検定受検の案内や推奨は行っているが、形骸化している感も否めない。これは、生徒の能力や意欲によるところが大きいいため、やはり個に応じた指導を継続することが必要と感ずる。
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価							
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	90	90	各校務分掌は部署長を中心に適切に処理されている。反省点においては、7年度に向けて、各分掌の業務内容・配置等の徹底した見直しを行った。チーム担任制になることから、より強固な相互連携が求められる。
				校務全体の円滑な推進のため各分掌間・学年・学科間の相互連携を図る。	85	85	
				分掌ごとの業務記録、資料の保存に努める。	84	83	
(2)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究などを行う。	生徒の実態や本校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年2回以上行う。	78	85	学校戦略支援室が中心となり校内研修(必須・選択)を計画したことで効果的に実施できた。7年度に向けて、研修内容を模索中である。研究授業においては、全教科で行う必要がある。校外研修の受講者は都度報告書を作成し、教職員へ共有することにした。
				指導実践力の向上を図るため研究授業及びその授業研究を各教科とも年1回以上行う。	59	63	
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	66	70	
(3)	現職教育	教職員の資質向上への取り組み	教育センター、各種教育研究会などの研修に積極的に参加する。	教育センター・私学協会・各教科教育研究会で開催される研修会に計画的・積極的に参加し、教職員の資質向上を図る。	76	78	研修係による積極的な案内により、教職員の研修参加への意識の向上が見られた。今後はその内容の同士への共有、還元をさらに浸透させたい。

4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価							
(1)	学校環境整備	快適な生活環境の整備	日々の清掃活動を充実させ、美化意識を高めるとともに、節電・節水など省エネ運動にも取り組む。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	89	88	清掃活動への評価点は高いが、実際の取組は個人差が大きいといわざるを得ない。令和7年度は今一度原点に立ち返り、チームとしての指導力を最大限に発揮し全職員で清掃活動およびその指導に取り組む必要がある。
				特別な清掃活動(大掃除・愛校作業など)を月1回以上実施する。	86	83	
				省エネ運動を推進し、電気・水道使用料を前年比減に努める。	89	85	
(2)	施設設備の管理	有効活用と安全管理	施設・設備の有効活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を月1回以上行い、環境整備の保全に努める。	84	83	毎週末の査察において、全教職員で施設・設備の安全点検を実施している。不備や危険箇所があった場合は速やかな報告が求められる。
				日常の教育活動においては、施設・設備の安全運用を最優先とする。	92	88	
(3)	情報インフラの設備の充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り効率的な事務作業を行う。	92	90	情報管理部が中心となり、教務部と連携しながら成績処理や校務処理を都度改善しながら取り組んでいる。教職員間での共有も都度なされていた。
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。諸帳簿類の保管管理体制を整え、適切に運用する。	92	90	
5 開かれた学校づくり							
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年1回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	78	80	例年、県内本土の会場(本校・鹿児島・指宿・鹿屋)と在籍生徒数の多い遠方地区で実施している。参加率の視点で見ると、会場から陸路であっても遠方であったり、離島在住の家庭においては参加が困難なため、参加率は決して高いとは言えない水準であった。地区PTAでは、普段会うことのできない保護者と直接面談できるというメリットはあるが、今後は、一部地域のオンライン化を検討していく必要がある。
				PTA総会・地区PTA・保護者会などを活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	78	75	
		PTA活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的なPTA活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	76	73	
				PTA関係の会議への参加率向上に努める。	61	63	
(2)	地域や関係機関との連携	学校間連携の充実	他校や異校種との必要に応じた効果的な連携を行う。	関係中学校や大学等との情報交換や連携に努める。	71	65	「南さつま飛び立て高校生事業」や学科、部活動単位で積極的に地域と連携ができた。中学校行事への職員や生徒派遣なども充実していた。
				地域などからの苦情に対し、適切に対応できる体制を整備するとともに、改善をすみやかに行う。	69	70	
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを見やすくし、定期的更新を行う。	学校情報の積極的発信に努める。	70	65	広報部・情報管理部を中心に学校や生徒の様子をリアルタイムに発信できた。各部署からの発信が増せば更に閲覧も広がると期待する。

【総評】

【総評】

<p>評価の結果 (課題と問題点)</p>	<p>(1) 学校経営全般について 次年度からスタートする教育環境の変革により、教職員が改めて本校の教育方針や具体的実践を再確認することができた。今後の課題として、チーム学校に確立するために教職員の意識や教育活動に格差が生じることのないように努める必要がある。</p>
	<p>(2) 教育活動全般について ここ数年で、今の教育に必要な指導法は何か？など、多くの教員が研鑽を積み、個々の授業等で取り組む様子が見られた。教育活動の中にも「不易流行」の姿勢は常に持ち合わせ、教育の本質は失うことなく、新しい取り組みを取り入れる必要がある。</p>
	<p>(3) 組織運営全般について 校内ネットワークを利用しての様々な情報共有はしっかり確立できつつある。引いては、学年・学科・校務分掌の各組織の中で教職員の意識をさらに高める必要がある。今回、令和7年度からのチーム担任制が組織運営の活発化に期待している。</p>
	<p>(4) 教育環境全般について 各施設においては老朽化も否めないが、生徒の学校活動に支障が出ないよう、適宜改修等を行っている。また、ネット環境もWi-Fiを学校および寮にも設置し、生徒が学習や寮生活で快適に過ごせるよう工夫している。今後は、学校・生徒で大切に利用できるよう努める</p>
	<p>(5) 開かれた学校づくりについて 生徒・保護者に対し、リアルタイムに情報提供や発信を受信できるよう、日々工夫に努めている。ホームページ、Gメール、Classroom等、積極的に活用している点は、教職員の努力の結果と自負する。今後はより分かりやすく発信する工夫と努力が必要である。</p>
<p>今後の改善策</p>	<p>(1)学校経営全般について チーム担任、チーム学校を目標に教育活動を展開する。その為には前述したように、教職員格差を作ってはならない。各部署の末端までの情報共有を確実に行う。</p>
	<p>(2)教育活動全般について 授業にタブレットを県内でもいち早く取り入れ、確実にその利用は定着している。利用価値をさらに上げるために、生徒に合った教材アプリを導入し活用しつつある。また、帯授業を充実させ、どの生徒へも共通し差のない学習提供を行っていく。</p>
	<p>(3)組織運営について 令和7年度から導入のチーム担任制の定着させ、スムーズな生徒との向き合いができるよう努める。そのために、現状の検証と問題点の分析および改善を随時行っていく。</p>
	<p>(4)教育環境全般について 施設・設備を大切に利用し、維持に努める。教職員の取り組みとして、毎週末の「査察(点検)」を細部まで実施する。また、利用の在り方等、生徒・教職員の改めて投げかけ、意識向上と具体的な実践できるよう努める。</p>
	<p>(5)開かれた学校づくりについて 学校内外の発信や受信、返信は日々改善の姿勢を持って取り組んでいる。今後は、発信内容の充実やより分かりやすい(見やすい)情報提供できるよう努める。 地域連携の学校として、南さつま市はもちろん県内外の様々な関係者と教育活動の充実のために関係性を構築していくよう努める。</p>